

2年 GSC 校内課題研究発表会が新聞に掲載されました！

十和田

個性的なテーマ 研究成果を披露

三本木高で発表会

青森県立三本木高（小森直樹校長）グローバルサイエンスコース2年生による校内課題研究発表会がこのほど、同校で開かれ、生徒たちが本年度取り組んだ研究成果を披露した。

生徒がグループごとに分かれてテーマを設定し、4月から週2こまの総合的な探究の時間に調査や実験を進めてきた。

同コース1、2年生や同高付属中の生徒約160人が参加。2年生24人が発表した。テーマは「シャープペンスルの芯の硬度の規則

研究成果を発表する生徒

性」「ポリグルタミン酸の粘度測定」「消臭剤を作ろう」「バナナの樹幹流による土壌pHの変化について」など。

このうち「バナナの樹幹流による土壌pHの変化について」は、十和田市奥瀬にある両校の学校林が題材。土壌中の水素イオン濃度指数（pH）を調査し、本年度と過去のデータを比較し、発表した馬場心結（ことむら）さん（17）は「将来は研究職になりたいので、発表に向けて取り組みは良い経験になった。後輩たちにもこの研究をつないでほしい」と語った。

（松渡拓）

2023年12月30日 デーリー東北

身近な疑問じっくり研究 三本木高2年生 成果発表

十和田

研究成果を発表する生徒たち

十和田市の三本木高校（小森直樹校長）は12日、グローバルサイエンスコース2年生の課題研究発表会を開いた。9グループ28人が身近な疑問や授業で触れたことなどからテーマを設定し、4月から取り組んだ研究成果を発表した。発表会には同校付属中3年生や同コースの1、2年生約160人と保護者らが出席。八戸工業大学の藤岡与周教授ら4人が助言者を務めた。

増田暢さんのグループは、納豆のねばねば成分のポリグルタミン酸が汚れた水の浄化剤や消火剤として利用されていることに着目。ポリグルタミン酸を水道水に溶かした時の粘度を測定することで、森林火災の消火活動で上空から消火剤をまく際、散らばり具合の指標になると考え、実験を行った。ポリグルタミン酸を水道水に溶かしたものに真円球を落として、落下する時間を計測。専門家からアドバイスもらいながら条件を変えて実験し、粘度を導いた。今回は実験器具の都合でデータを出せなかった部分があり、粘度と溶かした量の関係を調べることができなかったが、今後その点があれば消火剤をまく際の散らばり具合の予測に役立つとした。

助言者からは「室温なども統一して実験した方がよい」などのアドバイスがあった。増田さんは手作業でデータを測定するのが大変だった。アドバイスを受けて実験方法を確かめることにし、今後に生かしたいと話した。

他に、身近なものの消臭効果や、バナナの樹幹流による土壌の成分の変化に関する研究などが発表された。

（大庭菜摘）

2023年12月16日 東奥日報